

遊縁の時のつゝ、恥の肥と云ふ不候。氷人の外、這縁未ご
知りぬれば、宜しう候傳もある。所好ありや、いふを
理責て宜むれば、大千代所へうら悲願。いふおも先日又お染つ。
そなたこそ
そなたのふりぬれりしを、登述承るの返答ありん。今又這縁
小既ふこと、祈面目と缺と、いども。是内便の辨るれば、後
所へいふを、まど。然りと、いども彼女が、いふる條、由お染ハ
ざるや。其説と承り、有面目も、遠道理。貴公も、幼少を
話さるるを、所謂存ト生らる。承りて返答せん。と問
詰られ、有係の吉何といふべき、為慈も、なく。僕他と、遠
あり、一編、為井小、と承合を、解理の、遊さるとん。後小
退さる、まど。存やせん、たやと思慮せしが、自分小ひき、欠
候せん、とを、より、倚声を、辨め。さす、小問を、由、ありの、明
小傳、おぬも、遊さる、ね。實を、あし、言さる。いと、彼娘へ、願
より、小子を、れと、僧縁、するを、娘も、大槩、おぼせり。いま、祝
言、されども、を、たう、ち、お、主、君、おも、候、と、遊、一、又、お、染、つ、おも、伝、し
爰、で、ん、と、存、せ、一、機、會、又、お、染、つ、今、日、咱、を、招、ぎ。是、中、よ、りの、所、の
律、娘、が、お、ぼ、せ、ざ、り、し、の、ま、を、咱、お、終、り、て、遠、上、の、隣、家、の、好、ま
お、思、慮、な、し、ぬ、れ、よ。と、輕、き、小、小、子、或、は、ち、ち、或、は、惑、ふ、ん、胸、通、り
しが、頼、せ、れ、し、の、ま、を、采、お、等、閑、お、も、た、り、さ、す。面、目、を、多、れ、ど
系、り、し、ま、を、托、す、所、被、傳、ら、ざ、る、其、義、を、後、井、お、撲、れ、な、し。
小子も、又、それ、を、湖、お、娘、が、お、思、ひ、所、ら、ん、然、し、く、教、日、を、經、る
の、ち、他、家、へ、聘、嫁、さ、る、ま、ど。是、中、の、情、も、殊、る、ま、ど。唯、遠、上、の

豊田 詳 新編 卷之四